

聖地のこどもニュース

オリーブの木

No. 78
2020年 11月



日本からの感染予防グッズがエッフェタ聴覚障害児学院に到着。また授業ができて、みんな大喜び！

支援者の皆様 もうすぐクリスマス！ お元気でお過ごしでしょうか？

新型コロナウイルスの感染は世界中で広がっています。イスラエル・パレスチナでも、感染対策がうまくいっていません。経済的にも社会的にも大きなダメージとなり、政府に対して人々の不満が爆発しています。

子どもたちの教育も機能していません。新学年は例年のように9月1日に始まりましたが教育省と保健省の政策に食い違いがあり、クラスターがあるたび、学校が閉鎖されています。学年によって授業日や時間が異なったり、オンライン授業もうまくいかなかったり、教育現場はとにかく混乱しています。感染予防のためのグッズ（マスク、アクリル板、消毒用アルコールなど）が十分に手に入らないことも原因の一つです。

またこの混乱で、授業料を払えない親が続出しています。国の将来を担う子どもたちが学び続けることができるよう、皆さまの一層のご支援をお願いいたします。

理事長 井上 弘子 スタッフ一同



2020年11月、引き続き認定NPOと認められました

認定NPO法人

聖地のこどもを支える会



これは、JANICの「アカウンタビリティセルフチェック 2012」マークです。JANICの「アカウンタビリティ基準」の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について当団体が適切に自己審査したことを示しています。

事務局 〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-7-502 Email ispalejpn@gmail.com TEL/FAX 03-6908-6571

ご支援は… 郵便振替 00180-4-88173 加入者名 「NPO法人 聖地のこどもを支える会」

当法人へのご寄付は、税制優遇が受けられます。

<https://seichi-no-kodomo.org>

「正」の連鎖を生むアクションを 若者からの提言

平田すみれ（当法人事務局インターン・2018年スタディーツアー参加）

近頃のニュースで、各国が国益ばかりを優先し、自己中心的な考えを主張する様子を見るたびにうんざりしてしまう。世界的パンデミックが起きているというのに、なぜ協力体制のもとにこの脅威に立ち向かおう、という姿勢を持ってないのだろうか。イスラエルの歴史学者・哲学者であるユヴァル・ノア・ハラリ氏は、現状に対しグローバル・ナショナリズムの必要性を説いており、新型コロナウイルス等感染症への真の対抗手段は、分離ではなく協力だと警鐘を鳴らしている。

この先世界が一丸となって進んでいくためにはどうすればいいのか、私なりに考えてみた。自分本位な行動が生まれる所以は何であるのかと。様々な理由が挙げられるが、私は、他者を思いやる気持ちの欠如によるのではないかと考える。近頃は国や民族・肌の色・宗教・ジェンダーなどの違いを理由に、自分と「異なる」存在を受け入れようとしなない人々が増えてきているように感じる。しかしこれらの要素がどれほど違って、私たちはみんな同じ人間であるという、この原点に立ち返って考えることが、今必要なのではないだろうか。自分と異なる立場や背景の人の気持ちを思いやること。これを少しばかり意識するだけで、他国や他者の状況を全くの他人事としては捉えられなくなるのではないだろうか。

そしてもう一つ、自分本位の感情が生まれる根底に存在するのは、他人に対する妬みや僻みなどの「負」の感情であると感じる。人は自分の心が満たされていない時、他人に優しくする余裕がなくなってしまうものだ。ある人に「負」の感情が生まれ、それが人から人へと移ると「負」の連鎖となり、対立や争いが引き起こされていく。自分自身が満たされてい

る状態であれば、他人に対して敵対心ではなく、相互受容と言った感情が芽生えるのではないだろうか。私はこ

の自分自身が満たされている状態のことを「心の平和」と呼んでいる。私にとって「平和」の根底にあるのは、その人自身が現状に満足して「幸せ」だと感じている状態、つまり「心の平和」だ。私は人間一人ひとりに「心の平和」が保たれていれば、世界から争いは消えるのではないかと心から思う。

では、「心の平和」を保つために、今の私に何ができるだろうか。それは、自分ファーストな考えを持つのではなく、家族や友人・周囲の人々に寄り添うことや、異国の地の人々に思いを馳せることではないかと思う。より身近なことと言うならば、電車の駅で自分よがりに歩くことをやめて、他の人を気遣うこと。日頃の感謝の意を周囲の人たちに伝えてみる。情報収集をして日本国内や世界の抱える課題に敏感になること。

対立や争いは人が作るものだから、それらをなくすことも同じ人にできるはずだ！「負」の連鎖ではなく、「正」の連鎖を生むためのアクションを起こす人が増えていけば、世界も自国優先主義ではなく、協調への道を歩めるのではないだろうか。そして、一人ひとりの行動の積み重ねがより多くの人々に「心の平和」をもたらし、やがては対立や争いのない世界が訪れるのだと私は信じている。



「平和の架け橋プロジェクト」での「絆ゲーム」。2週間の共同生活での「平和共存」体験を経て、友情の絆を確かめ合う。

新型コロナウイルスと闘う聖地

ヤクーブ・ガザウィ（当NPO法人現地スタッフ、エルサレム聖墳墓教会オルガニスト）

新型コロナウイルスが世界を襲ってから8ヶ月が経ちます。ここイスラエルとパレスチナでも経済的にも文化的にも大きな打撃を受けました。私たちは、親しいもの同士ハグやキスをして挨拶を交わす

など、「密」になりやすい習慣を持っています。しかしこの生活習慣も感染症の到来によって、壊されてしまいました。封鎖による外出禁止令によって家族や友達に会うこともできません。

また、イスラエルでは失業者の数は100万人を超えています。パレスチナの状況はさらに苦しく、厳しいものになっています。イスラエル・パレスチナともに観光が人々の主要な収入源のため、失業者の数は増え、人々の生活は大変な影響を受けています。

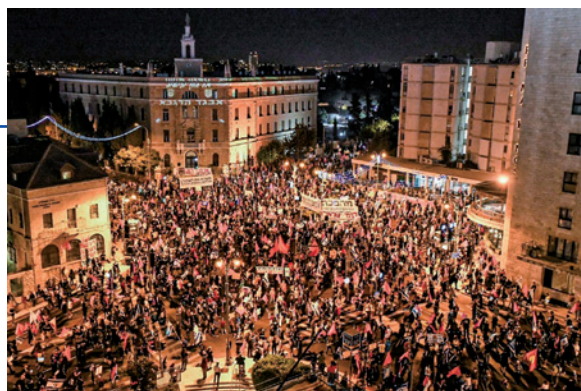
さらに政情も不安定です。右の写真は、人々がネタニヤフ首相に辞職を要求して首相官邸近くで連日デモを行っている様子です。彼の政策によって、社会や人々は右派や左派といった形で分断され、衝突があちこちで生まれています。私は、彼の新型コロナウイルス対策は一貫性がなく、極端で不適切なコロナ対策によって人々の状況はますます苦しくなっていると感じています。このまま今の政策が続けば、コロナの収束は遠のいてしまうでしょう。貧しい家庭はさらに困窮し、中流階級の人々も苦しむ一方で、政府からの援助はほとんどありません。

教育面でもシステムが崩壊しかかっています。教師や生徒の誰もがオンライン授業に慣れていないのです。本来、家というのは家族が集う憩いの場ですが、教育を受ける場としても混同されてしまっていて、どちらも中途半端、勉学の遅れや家庭内暴力、子どもの心理的不安定など様々な問題を生み出しています。

私は、パンデミックを乗り越えるためにはイスラエル人とパレスチナ人との協力こそが必要であると考えます。パレスチナ人は彼らの力だけで、この危機的状況を打破することはできません。3月以来多くの人はほとんど収入ゼロ、政府からの助成金はないままです。この状況下では教育費を払うことがどれだけ大変かということを想像していただければでしょうか。皆さまのご寄付とご支援のおかげで、一部の子どもたちは教育を受けることができます。しかし、多くは日々の暮らしに精一杯で教育を受けることが大変難しい状況です。今後も、一人でも多くの子どもたちが教育を受けられるよう、ご支援をよろしくお願いいたします。

この危機的状況は遅かれ早かれきっと終わるでしょう。私たちは希望を失わず、互いに支え合って、前進していきたいと思っています。

皆さまに神のお恵みがありますように。



エルサレム中心部、首相官邸近くでのデモ。

日本の支援者の皆さま、 ありがとう！

おかげさまで、この1年間、延べ100名の生徒が学校に通うことができました。

所在地・学校名

支援できた
生徒数

●エルサレム	聖ディミアナ・コプト学院	13
	聖ヨゼフ学院	4
	テラ・サンクタ学院	6
	聖ディミトリオス スクール	3
	聖ジョージ学院	1
	聖タルクマンハス学院	2
	プリンセス バスマ学院	4
	シュミット学院	1
	スパニッシュ スクール	1
●ラマツラ	聖ジョージ学院	1
	エバンゲリカル・ルーテル学院	2
●ベツレヘム	ダル・アル・カリーマ学院	17
	シーラ障害児学園	10
	聖ヨゼフ学院	1
	テラ・サンクタ学院	1
	エフェタ聴覚障害児学院	5
	テラ・サンクタ カレッジ	8
	エルサレム学院	1
	福音派ルーテル希望の学校	1
●ザバブデ	カトリック大主教区学院	4
● Beit-Jara	聖アフラム学院	7
●クレミザン	サレジアン・シスターズ スクール	5
●その他		2
合 計		100

一層の支援を
お願いいたします！

UAE・バーレーン 対イスラエル「正常化」3つの「？」

村上 宏一（当法人理事・元朝日新聞中東アフリカ総局長）

話は少しさかのぼりますが、今年8月13日にイスラエルとアラブ首長国連邦（UAE）が国交正常化に合意しました。中東の歴史や政情に関心を持っている人々なら、イスラエルとアラブの国が正式に国交を持つのは珍しいことなので注意を向け、中には驚いた人もいるでしょう。米国のトランプ政権は、イスラエル・パレスチナ紛争の平和的解決につながる歴史的な合意だと称えました。一方、パレスチナ自治政府はこの合意について、イスラエルの占領・入植地政策などを正当化したことを意味し、アラブ国家としての裏切りだと、UAEを非難しました。果たしてこの「国交正常化」は、トランプ政権が言うほど歴史的なのか、アラブ諸国の中に追随する国が続出するのか。3つの「？」を突き付けて考えてみましょう。

この国交樹立が歴史的？

中東の歴史の中で国交正常化と言って思い出されるのは、1979年3月のイスラエルとエジプトの平和条約締結です。

イスラエルと国境を接するエジプトは、4次にわたる中東戦争で直接戦火を交え、67年の第3次中東戦争ではシナイ半島と、48年の第1次中東戦争で領有したガザ地区をイスラエルに占領されました。その後、緒戦ではイスラエル軍に苦戦を強いた73年の第4次中東戦争で自信を得てイスラエルと対等な条件の交渉に乗り出し、79年3月、両国は平和条約に調印しました。直接戦ったアラブ諸国の中で初めてイスラエル国家を承認したこの「国交正常化」は、まさに歴史的なものでした。

イスラエル承認によってエジプトは、シナイ半島の返還および仲介役の米国からの軍事・経済援助という、大きな見返りを得ました。ただし当時は、アラブ諸国の対イスラエル姿勢は強硬で、「裏切り者」のエジプトはアラブ世界の協力機構であるアラブ連盟から一時期資格停止されたほか、条約を締結したサダト大統領はイスラム過激



イスラエルの旅客機が8月31日、さっそくUAEに初飛行した。
写真：アラブ情報媒体 Arab Media & Society から

派組織の一員により暗殺されたのです。

1993年のパレスチナ暫定自治合意（オスロ合意）で和平ムードが生まれたのを受けて94年10月、イスラエルの東隣のヨルダンも、フセイン国王（当時）の主導でイスラエルと平和条約を結びました。しかし、パレスチナ和平交渉が停滞し行き詰まる中で和平の機運もしぼんでいったのでした。

この間、イスラエルによるヨルダン川西岸への入植が進み、パレスチナ国家を打ち立てるべき領地が侵食されて二国家共存による和平の見通しは暗くなる一方です。トランプ政権によるイスラエル支持一辺倒と言っている中東対応が、この傾向に拍車をかけています。そんな中で発表されたUAEの対イスラエル国交正常化でした。

UAE、そしてすぐに後追いでイスラエルを承認したバーレーンは、イスラエルから遠く離れ、領土など利害がぶつかることもありません。また、パレスチナ人に心から同情を寄せ、支援するという姿勢はそれほど強くはなかったと思われます。それより、ペルシャ湾を隔ててイランと隣接する湾岸の小国UAEとバーレーンにとっては、イランの強大化の方がはるかに重大な関心事なのです。そのイランを最大の脅威と見なすイスラエルのネタニヤフ首相、それを支持してイラン包囲網を目論むトランプ政権という、思いが一致する両者と手を組んでの平和条約です。米政府が言うように中東和平につながるという意味で「歴史的」と

呼べるのか、考える必要があります。

入植地の併合を防いだ？

ネタニヤフ首相は、ヨルダン川西岸のユダヤ人入植地などのイスラエル併合を、7月に宣言すると予告していました。それが、UAEとの国交正常化合意のために凍結されたと伝えられ、UAE側はそのことを強調して、アラブ国家としてイスラエルを承認したことの「言い訳」にしたように見えます。入植者の中には、ネタニヤフ首相が裏切ったと非難する者もいた、という報道さえありました。

ところが、国連広報センターの報告によると、9月15日にUAE、バーレーンとの国交正常化合意文書に署名したネタニヤフ首相が帰国したとたん、イスラエルは入植者の何百戸という住居の増設に許可を与えたそうです。併合という大見目は切らず、実質的な領有の拡大強化を推し進める姿勢であり、「イスラエル・パレスチナ紛争の解決へ向けて貢献した」と自賛したUAEは、面目を失った形です。

いま思えば、ネタニヤフ首相の併合宣言に待ったをかけるとは思えないトランプ大統領が併合宣言にゴーサインを出さなかったのは、この問題に慎重だったからではなく、自分が仲介する国交正常化という「歴史的和平」の実現へ向け、UAEに「併合を止めた」という口実を与えられるようにしたかったからではないでしょうか。

ネタニヤフ首相にしても、占領地の併合という国際法違反の行為であるとして国際社会からの批判が強い入植地併合は、今強行しても得策とはいえない。それに「オリーブの木」前号の記事（イスラエルの入植地併合、実現なら「死に体」和平にとどめ）で述べたことですが、そもそも西岸の多くの部分が事実上イスラエルに併合されているとさえ言える現状で、正式な併合は無理に急ぐ必要はないと考えているのではないのでしょうか。

アラブから追隨相次ぐ？

10月23日、アラブ連盟の一員であるスーダン暫定政府が、イスラエルとの国交正常化に合意したと発表しました。これも米トランプ政権の仲介によるもので、UAEの対イスラエル正常化の際、アラブ諸国から同じ動きが相次ぐだろうと言っていたトランプ大統領としては、なんとしても推進したい外交成果だったでしょう。

スーダンの正常化方針の背景には、米国からテロ支援国家に指定されて外国からの投資や融資が見込めなくなっていたことなどで、経済の落ち込みがひどくなったことがあるようです。今回、テロ支援国家の指定解除がイスラエルとの国交正常化の条件だったとみられ、暫定政府を支える党派の中からは、パレスチナとの連帯を放棄するのかと反発する声もあがっています。

スーダンでは1989年のクーデターで誕生したバシル政権が、イスラム過激派組織を支援したとして93年、米国からテロ支援国家に指定されました。2019年にバシル政権が倒され、軍部勢力や民主派勢力などが共存してできた暫定政府に対しトランプ政権が働きかけ、暫定政府がテロ犠牲者や遺族に賠償金を支払うことでテロ支援国家の指定を解除しました。それが10月19日。その4日後にイスラエルとの国交正常化方針が発表されたのです。

米大統領選挙を間近にした時点で、またもイスラエルからは遠く、直接利害がぶつかる関係とは言えない国を選んで、トランプ大統領が外交成果を強調するために仕掛けた「国交正常化」の動き。それを考えると、追隨するアラブ国家が相次ぐ状況ではなさそうです。

ただし、アラブ諸国にとって、イランの脅威とか経済的苦境とかの各国の事情が優先され、パレスチナ支援という、これまで重視されてきた「アラブの大義」が脇に置かれやすくなっていること。これは、中東の歴史の中で無視できない現実です。米新政権の中東政策にも注目です。

再び「認定NPO法人」として認められました

支援者の皆さま、「聖地のこどもを支える会」は、本年11月2日付けで、東京都知事より認定NPO法人の期間を5年間更新していただいたことをご報告申し上げます。(当法人は2015年以来「認定」となっています) これも、皆さまが温かいご支援を続けて下さったおかげと感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

認定 NPO 法人とは…

NPO 法人のうち、運営組織および事業活動が適正であること、その活動が公益の増進に資することなど、一定の要件を満たすとして自治体から認定を受けたもので、認証番号が発行されます。5年の有効期間ごとに審査があります。当法人の新しい認証番号は【2生都管第956号】です。

認定 NPO 法人への寄付には税制の優遇が受けられるとともに、法人には事業活動全般にわたり、決められた要件を継続して満たすことが求められます。

認定NPO法人への寄付は税制優遇が受けられます

※正会員費はご寄付額の中に入りません。ご了承ください。

個人の場合 ⇒ 寄付金控除を受けられます

確定申告を行うことで税金が還付されます。「所得控除」「税額控除」、いずれか有利な方を選択することができます。

※年末調整では申告できません。 ※確定申告用の正式領収書は、原則として毎年1月下旬に皆さまのお手元にお送りします。

所得控除 下記の計算式による金額が
"所得"から控除されます。

$$(\text{寄付金合計} - 2,000\text{円}) = (\text{寄付金控除額})$$

※寄付金の合計の上限は、所得額の40%です。
※所得税率は課税所得により異なります。

税額控除 下記の計算式による金額が"所得税額"から控除されます。

$$(\text{寄付金合計} - 2,000\text{円}) \times 40\% = (\text{寄付金控除額})$$

※寄付金の合計の上限は、所得額の40%です。
※税控除の対象となる寄付額は、所得税額の25%が上限です。

めやす

例えば1万円の寄付で、3200円が所得税から控除されます。

東京・神奈川など、自治体によっては住民税も対象となるため、1万円の寄付で4000円が控除されます。

法人の場合

⇒損金算入限度額の枠が拡大されます

一般の寄付金の損金算入限度額とは別に、下記の特別損金算入限度額の範囲内で、損金に算入できます。

$$\left(\frac{\text{資本金等の額} \times \text{当期の月数}}{12} \times 0.375\% + \text{所得の金額} \times 6.25\% \right) \div 2$$

※詳しくは最寄りの税務署へお尋ねください。

相続人の場合

⇒寄付をした相続財産が非課税になります

例えば、1000万円の相続財産がある場合、このうちの800万円を認定NPO法人に寄付すれば相続税の課税対象額は200万円になります。

※上記は金銭の場合です。不動産(土地・建物等)等は扱いが異なる場合があります。
(みなし譲渡所得課税)

郵便振替で

同封のリーフレットに刷り込みの振替用紙をご利用下さい。(恐れ入りますが、振替手数料はご負担下さい)

NPO法人 聖地のこどもを支える会

00180-4-88173

あなたのパソコンのEメールアドレスをご記入のうえ
ご寄付の主旨に✓チェックをお願いします

- ☐ 当法人の活動・運営全般への支援
- ☐ イスラエル・パレスチナの子どもたちへの教育支援
- ☐ 当法人の青少年国際交流活動への支援

クレジットカードで

ホームページにアクセスの上、「今すぐ寄付をする」ボタンをクリックして寄付のページに進んで下さい。



<http://seichi-no-kodomo.org>

聖地のこども

検索

食欲の秋

アラブ料理特集♪



ズッキーニのマハシー

「マハシー」とは詰め物の意で、ズッキーニに肉やご飯を詰め込んだものです。中東地域で広く食べられている料理で、地域によってはヨーグルトで味付けをするなど特徴が異なるようです。

秋と言えば…食欲の秋ですね。皆さんはイスラエルやパレスチナで食べられているアラブ料理をご存知でしょうか。巡礼等で行ったことがある方は懐かしく思い出されるかもしれませんが、日本ではあまり馴染みのないものだと思います。そこで、今回は当法人現地スタッフのヤクーブ・ガザウィがおすすめするアラブ料理をご紹介します。写真はどれも、ヤクーブの両親による手作りで。



マクルーベ

「マクルーベ」とはアラビア語で「ひっくり返した」という意味です。その名の通り、鍋に肉や野菜そしてお米を重ね入れて、最後にお皿にひっくり返して仕上げます。

ほかにも……



写真左：ケバブ（肉のロースト）・フムス（ひよこ豆のペースト）・アラビック野菜サラダ

中：肉料理とフムス 右：マンサフ（発酵させた乾燥ヨーグルトのソースで煮込んだ羊の肉、ライス）

認定NPO法人聖地のこどもを支える会の 会員になりませんか？

さまざまなプロジェクトをはじめ、教育支援事業など、当会の活動を総合的に支えていただく会員制度。あなたのご意見が、平和のつくり手を育てます。事務局までお気軽にお申し出ください。

正会員	個人	年額	12,000円／1口
	学生	年額	6,000円／1口
サポート会員		年額	6,000円／1口

正会員は、当法人の総会等での議決権を行使することができます。

支援金の自動払込みサービス

ご好評を頂いている自動払込みサービス。まだの方はぜひご利用ください。

- * 毎回 郵便局へ払込みに行く手間が省けます。
- * いつからでも、いくらからでも 簡単に始められます！

お申込み・お問合せは

当法人事務局 **03-6908-6571**

または **042-636-9218** (中山)

日本のみなさん、感染予防グッズをありがとう！



ウイルス蔓延中のエルサレム



▲いつもユダヤ教徒が密集して祈る「嘆きの壁」も、人影はまばら。



▲旧市街の最も賑やかなはずのヤッファ門。ロックダウンのため門が閉じられ、中に入れない。



▲エルサレムとテルアビブを結ぶ国道1号線も交通が規制されている。

街で出会ったこどもたち この笑顔が取り戻せるのはいつ？(ラマラ)



▲幼稚園児を送り迎えする保護者たち。